

【福祉について】

知事： 私は高知市立鴨田小学校に通っていました。鴨田小学校は当時、高知県で一番大きい小学校で、神田小学校と分かれてもなお2000人の生徒がいました。今も、高知県で一番大きい小学校ですが、生徒数は960人くらいしかいません。私が子どもだった頃に比べて、生徒の数が大体半分くらいになっています。

あと30年くらいしたら、さっき言ったように、子どもの数が半分しかない。その子ども達が今度、30年経ったら大人になりますよね。大人になって、2000人の高齢者を、1000人で支えないといけないということになり、1人で1人を支えるよりもっと厳しい状況になるぐらい、これからの福祉の世界というのは大変になると思います。

単に、1人で1人を支えないといけないから大変だということではなく、もっと言えば、日ごろの見守り、安否の確認など、1人がやらなくてはならないことが増え、大変になってくるんだろうと思います。福祉に大勢の人の力が必要になってくる時代がくるのだと思うわけです。

だから、福祉の仕事って本当にこれから大事です。ですが、いろいろ条件が厳しいこともあって、離職する人がものすごく多かたりする。それから、そもそも福祉の現場に就職しようとする高校生の数が不足しているという問題があるんです。だから、どうやって福祉の仕事に興味をもってもらい、高校生の皆さんにそういう現場への就職を考えてもらうかということが大事であるとともに、その福祉の現場自体のやりがい、労働環境というのをどう改善するかということも、実際にはものすごく大きいことだと思っています。

例えば、介護の職員の給料は、少しずつ上がっていますが、まだまだ改善は不十分で、これからもっと取り組みを進めないといけない現場だと思っています。

具体的に女子大との単位を交換、それから、教養科目として福祉のことを取り組んでいこうという、良いご提言をいただいたので、是非考えてみます。

福祉系の皆さんって、何人いらっしゃるんですか？ 今、各学年で6人ぐらいずつなんですか。特に、福祉のほうをやってみようと思ったのはどうしてですか？

生徒： お年寄りが増えてきているので、介護の勉強をして、室戸のお年寄りを助けたいと思ったからです。また先生に勧められたからと、就職率が良かったからです。

知事： さっき、仕事が高知県はあんまりないと言いましたが、介護の分野とか、そういう分野ではたくさんあります。ですが、なかなか若い人が参加してくれないということが一つの大きな問題になっています。

これは、何ととっても、まずは大人が悪いと思っています。もっと介護の分野や、福祉の分野で若い人が就職できるような環境を整えることを、大人がしないといけま

せん。本当に必要とされている分野なので、是非、身近な自分のおじいちゃん、おばあちゃんを助けたいという気持ちとか、また、自分のお父さん、お母さんを助けたいという気持ちを、他の人のおじいちゃん、おばあちゃんも助けようという気持ちに広げて、考えてもらいたいと思います。

教育長： この「福祉の未来予想図」、タイトルがいいですね。未来予想図。そして、そこに提案が入っていますね。これ、非常に素晴らしいことだと思います。非常に的を射た良い発表だったと思います。

ちょっと遡りますけど、最初の発表の中で、これからいろんな工夫が必要だというお話がありました。まさにそれがポイントです。良い素材はいっぱいある。あるけれども、それをどう生かすかというのは工夫なんです。深層水のスジアオノリを研究し始めたのは、多分、10年くらい前だったと思います。試行錯誤して何回か失敗もしています。やっここまでこぎつけたということです。良い素材をどう生かすかは人の知恵。努力だと思いますね。ここに可能性があると思います。